



「技術流出」は時代の流れ 「さらに上をいく努力」を怠るな

天津龍巳模塑有限公司 / タツミ化成株式会社

日本と同レベルの技術力を保ち、中国の経済成長に貢献する金型・プラスチック製品メーカー「天津龍巳模塑有限公司」。人材を重視し、技術力向上の努力を怠らず、中国の金型業界をけん引する原動力としての役割を担う。

タツミ化成(愛知県大府市)は2003年12月、プラスチック製品製造と金型製作のノウハウを日中両国の共栄に役立てたいと、天津龍巳模塑有限公司を設立。同社は天津経済開発区(TEDA)と市内の中間地点である天津市東麗経済開発区に位置する。仮工場でのスタートだったが、2004年10月に本社工場が完成し、現在は日系の化粧品、家電、自動車部品メーカーなどに製品を提供している。

10年で4工場を立ち上げ 天津を知り尽くし業務も順調に

天津龍巳模塑を一から立ち上げた竹腰英雄副総経理は「金型工場請負人」として業界で幅広く知られている。専門家として海外貿易開発協会(JODC)に登録していた10年前、日系メーカーから天津での金型工場設立を任される。中国行きを決めた竹腰氏は「中国にとことん貢献したい」と経営していた工場を社員に譲り、天津に家を購入。その後、北京と天津で3つの工場設立に関わり、2003年に天津龍巳模塑の副総経理に就任した。

最初の工場立ち上げ時は、事前のリサーチから、協力者選び、機械購入や部材調達、人材募集、顧客開拓に到るまで、すべてゼロからの作業が必要だった。「当初は右も左も分からず苦労したが、天津龍巳模塑創立時には「約10年のキャリアを積み、作業はスムーズに進んだ」(竹腰氏)と胸を張るほど、業界や天津の事情に明るくなっていった。

不足する人材は自ら育成 専門学校に金型科開設

竹腰氏は2002年9月から、人材教育(本社:東京都新宿区)の「ヒューマングループ」が天津で展開する日本語学校「修曼(天津)同文涉外職業学校」(1997年創立)に金型科を増設するというかたちで、金型分野の人材の育成に着手した。教科書も全て自ら編集し、ノウハウと技術を盛り込んだ。同学科3年生は1年間実習を行うが、同社が実習工場になっている。毎月1カ月分の学費に相当する400円を支給し、働きながら勉強できる場を提供している。2005年7月に卒業した第一期生33人のうち、8人が同社工場に就職した。優秀な学生を優先的に雇用することで、会社の利益にも貢献。竹腰氏は「将来を担う人材を育てることは、わたしにとっても会社にとってもプラス」と語る。

竹腰氏は天津にある金型工場5社のうち3社の立ち上げに携わっただけでなく、協力会社で働く中国人の独立をサポートしてきた。8年間で金型成型・プレス加工など17社が立ち上がり、日系工場だけではさばき切れない加工を依頼するなど、「共存共栄」の関係を築いてきた。「地元経済や企業を活性化させることで、中国に貢献したい」という希望が竹腰氏の行動力の原点だ。

他社からは「なぜライバルを育てるのか」という声も聞かれる。技術や設計ノウハウなどの流出を懸念する日系企業も多い。しかし竹腰氏は「自分だけ儲けたい」という会社では人材も育てず、業績も思うように伸びないと指摘し、

「技術はオープンにしても構わない。中国の金型技術はそれほど遅れている」と言う。「技術流出は時代の流れ。止めることはできない。自分がある上に行く努力を重ね、共存共栄の道を探るべき」。

トヨタ「マークII」の金型は現在、約95%を日本からの輸入に頼っている。しかし中国政府の意向もあり、今後は50%以上を中国での現地生産に切り替える方針だ。「トヨタの天津進出をきっかけに、業界の一層の発展が期待できる」と地元経済の将来性を強調する。



会社運営の基礎は信頼関係 実績を象徴する満開のソメイヨシノ

従業員との関わりでは「技術指導に来てやった」という態度ではなく、溶け込もうとする熱意が大切だ。また「9つ誉めて1つ叱る」を実践し、プライドの高いローカルスタッフを鼓舞している。運営面では、日系企業との取引に特化することで、売掛金回収問題の発生を予防。「日系の中にも支払いが悪いところもあるが、会社に日本人がいれば、まず回収できる」と言う。

「中国での工場運営で最も重要な点は」との質問に、竹腰氏は「人」と即答した。「急成長を続ける中国に進出すれば、それなりの結果を出せると思う」と竹腰氏は言う。ただし、日本人だけで仕事をすればいいというわけではない。「どういう人を見つけるか。どれだけ信頼関係を築けるか。その点をクリアできれば、発展の波に乗れるはず」。合併会社でなくても、中国側の協力者は必要になる。また中国人従業員や品質の管理にはしっかりとした中堅幹部の存在が不可欠だ。人間関係を大切にすれば、業務は自ずとスムーズに進む。「信頼関係が築ければ、開発区政府などにも要望を伝えやすくなる」。

天津にある周恩来記念館で毎年4月、満開のソメイヨシノが楽しめる。竹腰氏が寄付し、毎週手入れに通った桜である。「日中友好」を唱えるのは容易だが、信頼関係を築くためには目に見えるかたちで実績を残す必要がある。天津金型業界で竹腰氏が手塩にかけて育てた木々。今まさに花開こうとしている。

資料

天津龍巳模塑有限公司
天津市東麗經濟開發区四緯路（〒300300）
電話：022-2498-3340(代表)
FAX：022-2498-2530
E-mail：info@tatsumimoso.com
設立：2003年11月
出資形態：独資
資本金：215万ドル
従業員：約60人
株主：タツミ化成株式会社 100%
営業種目：
プラスチック金型設計・製造 金型修理・改造・補整
プラスチック製品設計・試作加工
プラスチック成形加工・組付け 各種治具製作・シボ加工

<親会社>

タツミ化成株式会社
事業内容：プラスチック製品の企画・設計・模型
プラスチック金型の設計・製作
プラスチックの成形加工・組付け
プラスチック素材の切削・彫刻・メッキ・印刷
住所：愛知県大府市横根町新江15-12
設立：昭和53年4月1日
資本金：3,600万円
従業員：77人
ウェブサイト：<http://tatsumikasei.co.jp/>

聞き手：日中グローバル経済通信・北京支局 手塚抄子
(中国日本商会委託)